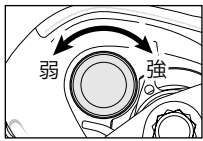


■メカニカルブレーキノブ

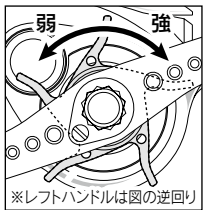
メカニカルブレーキは、スプールの回転にブレーキをかけるものです。右に回すとスプールのフリー回転にブレーキがかかり、左に回していくと、そのブレーキは弱くなります。

一般的な調整は次のように行います。リールをロッドにセットして、ガイドに糸を通し、使用するルアーを結びます。ロッドを水平にして、クラッチを切り、ルアーがゆっくりと落ちていく程度に調整します。



■スタードラッグ

ハンドル側から見て、時計回りに（レフトハンドルは反時計回りに）回すことでドラッグが締まります。



■ドラッグの調整方法

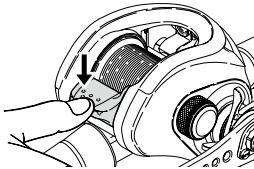
ドラッグとは、その強弱を調整することにより、急激な魚の引きに対し、スプールが逆転して糸切れ（ラインブレイク）を防ぐ機構です。又、その逆転時に発生する抵抗値をドラッグ力と言います。

1. 実際に使用される竿にリールをセットし糸をガイドに通してください。
2. クラッチを“ON”の状態にして、想定されるファイティング時のロッドの角度を保って、図のように糸を引き出しながらスタードラッグの締め付けを調整してください。その際、出来るだけ実際の状況に近づける為、対象とする魚の泳ぐスピードを想定して糸を引き出してください。



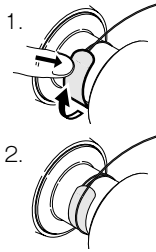
■クラッチ操作方法

親指でクラッチレバーを下に押すとクラッチが切れ、スプールはフリーの状態になります。カチッと音がするまで確実にクラッチレバーを押してクラッチを切ってください。



■スプールへの糸止め方法（糸を巻く時）

1. スプールにラインを結び、その結び目の上に市販のテープ等をピッタリと確実に貼ります。（指などで強く押してください。）
2. シールが確実に貼られていることを確認してラインを巻き込みます。（最初は少しゆっくりと巻くようにします。）
3. 特にPEラインは滑り易く、伸びがないのでナイロンラインなどよりも強いテンションをかけてきっちりと巻くことが必要です。

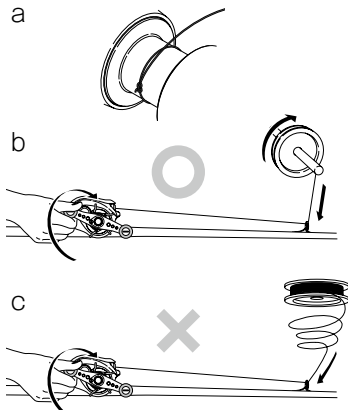


■スプールに糸を巻かれる時の注意点

PEラインを巻かれる際には、必ず滑り止めになる様な物をスプールに巻いてからご使用ください。そのまま巻かれますと、スプールに巻いた糸が空転し、糸が巻き取れなくなる可能性があります。

■糸の巻き方

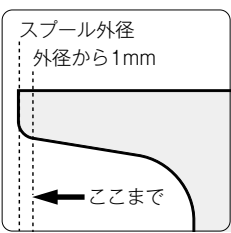
1. ドラッグを強く締め込みます。
2. リールを竿にセットします。
3. 元ガイドから糸を通してスプールに結びます。（図 a）
4. 糸が巻かれているポビンに、割り箸や鉛筆等の軸になるものを通します。
5. そのポビンと軸を誰かに持ってもらい、適度なテンションをかけて、ポビンを回転させながら糸を巻き取るようにして下さい。（図 b）図 c のようにならないようご注意ください。



尚、PEラインを巻かれる時は、事前にPEラインを十分に湿らせてください。巻き上げ時に発生する熱（抵抗熱）によってPEラインが劣化するのを防ぐためです。

●推奨糸巻量

糸巻量はスプール外径から1mmの位置まで巻くことをおすすめします。



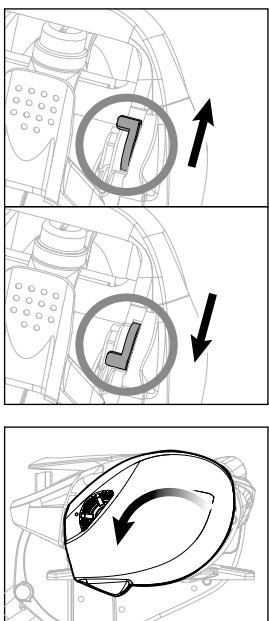
■スプール着脱方法

レバーを押し上げることで、サイドプレートのロックが解除され、開くことができます。釣りに使用される時や、持ち運びの時はレバーが下がってロックされている状態にしてください。※ライトハンドルのイラストで説明しています。

1. 開閉レバーを上げるとサイドプレートが開きます。
2. 閉じる際は逆の手順でサイドプレートを元の位置に取め、開閉レバーを下げてサイドプレートを閉じます。

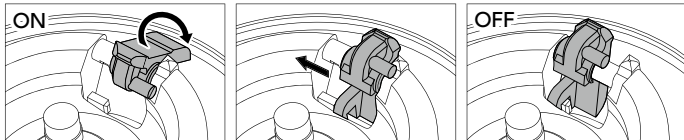
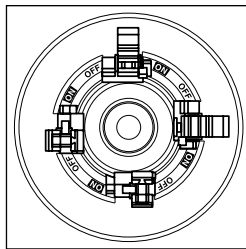
※サイドプレートを外した状態で開口部を下に向けると、スプールが脱落し、変形する恐れがありますのでご注意ください。

※メカニカルブレーキを締めた状態でサイドプレートを開けると、スプールがサイドプレート側に寄せられているため、構造上サイドプレートが閉じられなくなります。サイドプレートを閉じる際は、必ずメカニカルブレーキノブを緩めてください。



■ブレーキ調整方法

スプールに搭載されたブレーキシューでブレーキ力を調整します。スプールに搭載された4つのブレーキシューを図の要領でスライドし、ON/OFF切り替えすることで基本的なブレーキ調整ができます。ONにするブレーキシューの数が多いほどブレーキ力は強くなります。



■キャスト方法

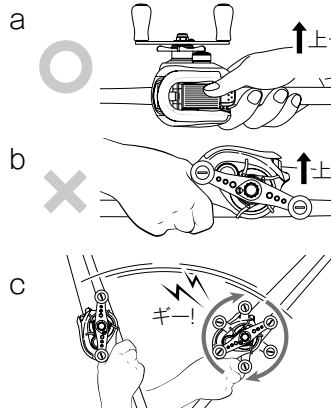
●正しい握り方

ハンドルを上向き（もしくは下向き）にして握ります。（図 a）

下記の握り方でキャストされますと、クラッチ返りが起こりやすくなりますのでお避けください。

ハンドルを横向きにしてしまうと…（図 b）

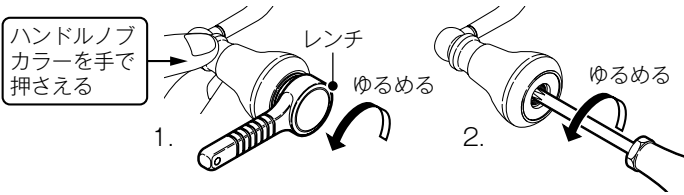
キャストの衝撃でハンドルが回転しクラッチが返ってしまいます。（図 c）



※キャスト時のクラッチ返りは、車でいえばクラッチを切らずにギアをつなぐ様なもの。最悪ギヤの破損の恐れもあります。絶対にお避けください。
 ※キャスト中にハンドルでクラッチを返さないでください。ギアの破損につながる恐れがあります。ルアーが着水してからクラッチを返してください。
 ※標準装備のハンドルより長いハンドルや、重い（大きい）ハンドルノブを取り付けると、キャスト時のクラッチ返りが起こりやすくなりますのでご注意ください。

■ハンドルノブの取り外し方（I型）

1. ハンドルノブカラーを手で押さえながら、付属のハンドルノブレンチを使い、ハンドルノブキャップをゆるめて取り外します。
2. ノブ内部のネジをゆるめて外します。



■夢屋パーツ取り付け可能

《夢屋タイプ》

ハンドル	ハンドルノブ
BH-1	A

※詳細はシマノホームページにてご確認ください。

お手入れ方法

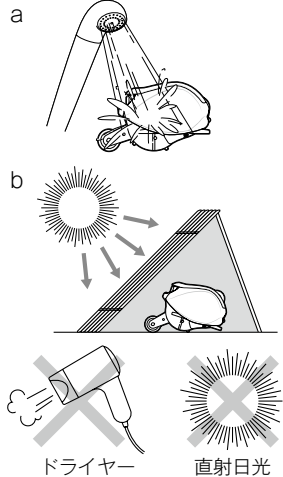
特に海水・汽水域でリールをご使用された後は、錆や塩分の固着によるトラブルを防止するためにも、以下の要領で釣行後にメンテナンスを行うことをお勧めします。

① 必ず竿から外してください。

使用後は、必ず竿から取り外して、真水で水洗いしてから保管ください。例え、水洗いされても、竿とセットしたまま放置されますと、リールのフット部とリールシートのフード部に水が溜まり、腐蝕する恐れがあります。

② 水洗いしてください。

ドラッグをしめ込んでから、ハンドルやクラッチ等の作動部を動かしながら、シャワー等の真水で、1～2分間水洗いしてください。（図 a）
 スプールを取り外し、スプールのみを水洗いしていただくことさらに効果があります。スプールに水分や汚れが残ったままリールに組むと、スプールフリーが悪くなりますので、必ずふき取ってから組み込んでください。



③ 乾燥させてください。

ハンドルやクラッチ等の作動部を動かしてよく水を切った後、ドラッグをゆるめ、直射日光を避けて陰干ししてください。（図 b）
 ※直射日光、ドライヤー等は内部のムレを引き起こします。
 ※隙間に残った塩分や錆による固着を防ぐため、乾燥中は1日に1度はハンドルやクラッチ等、作動部を動かしてください。

④ 注油してください。

グリス、オイルは弊社純正品（下記参照）をお使いください。そうでない場合の品質は保証いたしかねます。ご注意ください。

SP-003H（メンテプレーセット）	¥1,900
SP-013A（オイルスプレー）	¥1,050
SP-023A（グリススプレー）	¥1,100
SP-015L（ザルスリールオイルスプレー）	¥1,500
SP-017P（BFS専用オイルスプレー）	¥2,000

※最寄りの販売店にてお問い合わせください。上記は2015年11月現在の品番及び税抜本体価格です。

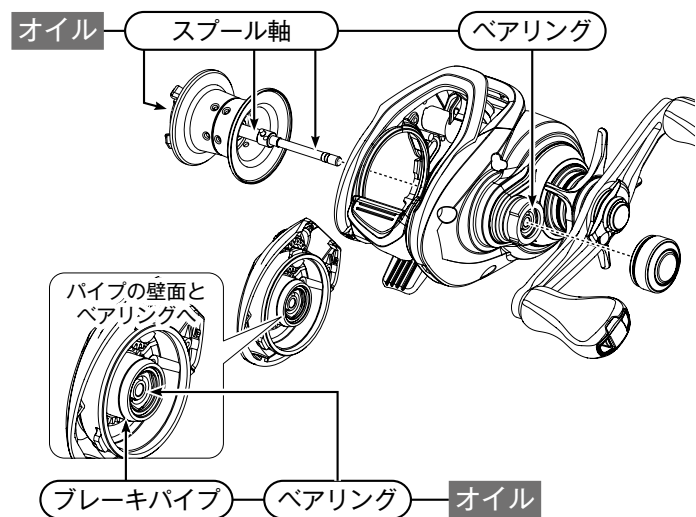
《注油上のご注意》

リールオイル、グリスがハンドルノブに付着したまま長期間放置すると、ハンドルノブが膨潤する場合がありますので、付着した場合はウエスやティッシュペーパー等で必ずふき取ってください。

図の注油箇所にはシマノリールオイルスプレーをまちがえないように噴霧してください。（シマノ以外のオイルは使用しないでください。）オイルはごく少量で充分です。特にベアリング部分は、あふれるようであればティッシュペーパー等で吸い取っておいてください。ドラッグ部にはオイルは注さないでください。

※イラストは実際の製品と異なる場合がございます。

●注油箇所



⑤ 保管上のご注意

保管の際は必ず竿から取り外してください。また、なるべく乾燥した冷暗所に保管してください。濡れたまま湿度の高い状態で密封された空間（自動車のトランク、ダッシュボード等）に長時間放置されますと腐食を起こす可能性があります。